

里地里山保全・再生の特征的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.144		椿山	生物地理区分		シイ・カシ萌芽林	
			地域区分		中山間地	
所在地	都道府県	沖縄県	地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地
	市町村	大宜味村		4.低地	5.その他()	
	集落名称等	大宜味、大兼久、押川、根路銘、上原、塩屋	環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田
		4.畑		5.小川・水路	6.ため池	
			7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林	
			10.その他()			

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
	<p>・大宜味村指定文化財</p> <p>稜線にそって、琉球王朝時代の約 220 年以上前から築かれ昭和 30 年代まで使われていた、「猪垣」(やまししがき)が延長約 4 km にわたって残されている。稜線より海側(集落側)に開かれた山畑を獣害から守るためのもので、石灰岩の石積みであることから形状をよく残し、高さは最大 2 m 以上に及ぶ。稜線を横断する里道との交点には「垣門」(はきんぞう)が設けられ、結ぶ字名をつけて呼ばれていた。</p> <p>例)大宜味垣門(いぎみはきんぞう)</p>
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
<p>・300ha の森:石灰岩地の植生が広がるが、2 億 5 千年前の古期石灰岩地のためか腐植層もあって PH は 6 程度。酸性土壌に成育するヤブツバキの群生(陽の入る稜線沿い)やイタジイの古木、クスノキ林(植林)が見られる。明るい森でツバキ類をはじめ花や実の着く木草が多い。</p> <p>・動物相:里山利用時代を経て、今では貴重となったものなど豊かな生息が見られる。特に蝶類が多い。</p> <p>国・県指定の天然記念物:ケナガネズミ、ノグチゲラ、リュウキュウヤマガメ、クロイワトカゲモドキ、イボイモリ、コノハチョウなど。</p> <p>レッドデータおきなわ:オリオオコウモリ、オキナワコキクガシラコウモリ、リュウキュウアカショウビン、ホントウアカヒゲ、リュウキュウオオコノハズクなど。</p>	<p>《景観の現状を表す事例》</p> <p>・図書:「大宜味の自然」(平成 7 年:大宜味村)、「大宜味村の猪垣」(94 年:大宜味村)、「猪垣と椿群落散策道における持続可能な観光地づくり計画」(平成 21 年:大宜味村・大宜味つばきの会)、「森づくりの手引き:大宜味の石灰岩の山と森」(平成 22 年:大宜味村・大宜味つばきの会)、「ウォーキングガイド:大宜味の石灰岩の山と森」(平成 22 年:大宜味村・大宜味つばきの会)。</p> <p>・散策道:稜線沿い 4 km にわたり整備(平成 8 ~ 10 年)。</p> <p>・第 1 回おおぎみ椿まつり(平成 23 年 2 月:実行委員会)</p> <p>・海に沿った山稜上に散策道があるため眺望に優れる。展望所は 8 箇所。近年利用が増えていて年間 1000 人程。</p> <p>・大宜味つばきの会と村が協力してガイドを育成。現在、大宜味つばきの会 7 人、育成 6 人、提携 2 人。</p> <p>・平成 25 年 2 月開催の「全国椿サミット沖縄大会」における探訪地。</p>



撮影時期：2010年2月

写真の説明：春・開花期の探勝会の様子。都市部の会員も参加。



撮影時期：2010年3月

写真の説明：対象地の調査や活動をまとめて普及用冊子を刊行。



撮影時期：2010年1月

写真の説明：良好な開花や森に多い蝶類の食草維持には要所に陽光の入る手入れが必要。

NO. 144		椿山		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	沖縄県			2.団体・企業・学校等
	市町村	大宜味村			3.行政による支援施策の活用
	集落名称	大宜味、大兼久、押川、根路銘、上原、塩屋			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他	

取組主体	主な主体の名称	特定非営利活動法人 大宜味つばきの会	
	その他の主体の名称		
目的 :主 :その他	1.農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化(伝統的なものも含む)		
	対象・取組内容	(里山管理の森林体験活動を村や地元字区や関係団体とともに取り組みを計画)	
	支援措置	(国・県の事業導入及び公益機関の助成事業などを計画)	
	2.バイオマスなど新たな資源としての利用		
	対象となる資源	ツバキの利用、(森の管理に伴い発生する廃材・残材利用を予定)	
	利活用方法等	苗木をはじめ、木炭やツバキ油を生産し、特産品とすることに取り組んでいる。	
	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用		
	自然観察会	*	(大宜味村の教育委員会などが企画して、協力する場合がある。)
	環境教育・学習活動	*	ツバキの展示会の実施、体験学習
	里地里山体験・環境保全	*	都市住民参加によるツバキの保全活動
	農林業体験活動	*	集落畑の活用・活性利用に協力・促進(椿苗や山菜等有用植物の栽培など)
	エコツアー	*	フィールド探訪者の案内
	その他		
4.野生動植物やその生息地の保全・管理			
取組内容	【ツバキの保全活動】 森の自生ツバキを調査・栽培育成し、村道やダム建設地等に植樹している。また、ツバキの見本園の整備や苗の栽培も行っている。		
5.地域の良好な景観の保全・修復			
取組内容	ツバキの群生地は遊歩道沿いに面しており、ツバキの保全活動が景観の保全にも繋がっている。		
連携・協働による取組内容・役割分担等		平成23年(2月)から「おおぎみ椿まつり」を実行委員会方式で開催。毎年継続。	
取組の特徴や強調したい点		大宜味つばきの会の会員(地元・都市部等50名)の参加・協働、大宜味村のバックアップ、大宜味ツーリズム推進協議会(関係団体・村)の協力、NPO法人おおぎみまるごとツーリズム協会との連携、地元字区との協働、および、沖縄椿協会の協力・支援、(財)沖縄海洋博覧会記念公園管理財団の協力・支援など	

取組の概要	自然を活かした地域づくりを目指す活動団体が農村と都市交流を通じツバキ類を保全	課題グループ
事例の特性	地域外の主体と地元地権者等の連携促進のためのコーディネート組織	仕組 野生生物 学習体験
取組の中で他の地域の参考となる点	地域にある資源を地元住民自らが認識し、都市域の住民と交流しながら保全活動を行うことで、自然を活かした地域づくりを実践している。	